大学留学
in オーストラリア

Beyond Dream

Future

Possibility

Broaden

EXPERIENCE

Diversity

ACHIEVE

Global

Delight

STAGE

STEP UP to the new world

オーストラリア留学の魅力

高い教育水準

オーストラリア連邦政府は、留学を国の基幹産業と捉え、留学生の権利と安全が保障されています。
連邦政府の専門機関が運営経歴、教育内容、財務状況、施設、授業時間などを厳しく審査し、合格した教育機関のみが「オーストラリア連邦政府認定校」として留学生を受け入れることができます。
また世界的な評価も高く、約40校ある国内の大学のうち約10校が世界大学ランキングの200位以内にランクインしています。

住みやすい都市

英紙エコノミスト誌の「住みやすい都市ランキング」においてメルボルンは世界No.2を獲得（2017年度まで7年連続世界No.1を獲得）。シドニー（3位）、アデレード（10位）もランクインしております。
※2019年度版より

多民族国家

200以上の多民族的背景を持つ人々が生活しており、海外からの旅行者・留学生についても温かく受け入れられる環境が整っています。オーストラリアの大学のほぼすべてで100ヶ国を超える留学生が学んでおり、全体の20%が留学生です。

日本との距離・時差

他の英語圏と比べて距離が近く、主要都市へは日本からの直行便があります。
日本との時差は最大2時間以内と、日本での生活スタイルとあまり変わらずに生活することができます。

<クイーンズランド州>

★ケアンズ／タウンズビル
グレートバリアリーフへのアクセス抜群のリゾート地

★ゴールドコースト ／ブリスベン
サーファーが多く集う世界的に有名な観光保養地

★サンシャインコースト
温暖地域の美しい海岸で有名な観光の街

<ニューサウスウェールズ州>

★ニューカッスル
シドニーへも日帰りで行ける、海に囲まれた街

★シドニー
オーストラリア第一の都市

<ヴィクトリア州>

★メルボルン
歴史的建造物が多く残る、世界一住みやすい都市

★ジーロング
メルボルンから1時間ほどのコライオ湾に面する港湾都市

<西オーストラリア州>

★パース
世界で一番美しいと言われる都市

<南オーストラリア州>

★アデレード
緑豊かで、温暖な気候の学園都市

オーストラリアの大学に進学する方法

オーストラリアでは、高校後期の11年生・12年生までの授業で日本の大学の「一般教養課程」の分野を履修します。
そのため、日本の高校を卒業し、オーストラリアの大学に進学する場合、大学によってファウンデーションコースを入学要件にしている大学があります。
最近は、個々の成績に応じて直接大学入学が可能な学部や大学も一部ありますが、基本的にはファウンデーションコース、あるいは、大学一年生の授業内容を少人数で学べるディプロマコースが一般的です。

※国際バカロレア認定高校を卒業した場合は、オーストラリアの大学に直接入学が認められるケースもあります

ファウンデーションコース

- 「大学準備コース」と呼ばれ、日本の大学の一般教養課程にあたる分野を履修します
- 成績基準を満たせば、大学に進学することができます
- 日本の高校を卒業後、オーストラリアの大学に進学する場合はまず、ファウンデーションコースに進みます

ディプロマコース

- 大学の1年次に相当する学位です
- 1年間の成績により大学2年次に編入することができるため、3年間で大学を卒業することが可能です
- 一度日本の大学に進学した後、オーストラリアの大学に進学し直す場合などにも適用されます

★大学に進学するための英語要件について

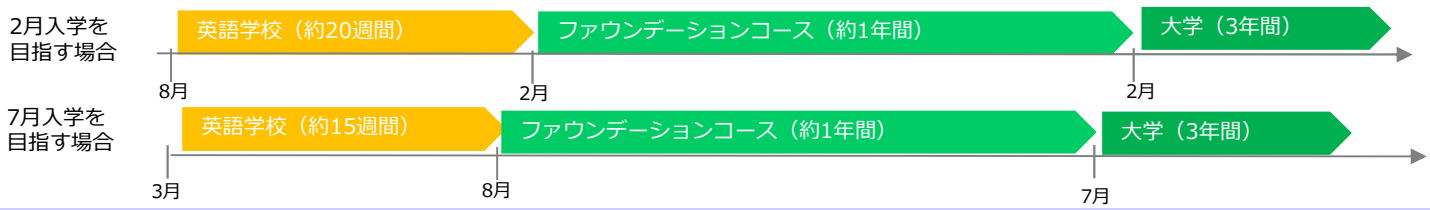
英語要件（IELTSスコア6.0が目安）を満たさない場合は、まずはオーストラリアの英語学校に通う必要があります

高校卒業後の進学スケジュール

入学のタイミングは年2回（3学期制の場合は年3回）あります

例：メルボルン大学トリニティカレッジ「ファウンデーションプログラム」（2学期制）の場合

※3学期制の場合は、スケジュールが異なります



	英語学校（20週間）	ファウンデーションコース（1年間）	大学（1年間）
費用イメージ	授業料＋登録料 AUD＄ 9,960（約72万円）	授業料＋登録料 AUD＄ 33,610（約243万円）	授業料 (人文科学部の場合) AUD＄ 32,512（約235万円）

その他、滞在・生活費や医療保険料（OSHC）などがかかります

AUD＄=72.09円で計算（2019年10月現在）

※授業料は2019年現在の料金となり、今後変更になる可能性があります
授業料割引のキャンペーンが実施される場合もございます
料金の詳細に関しましてはお問い合わせください

オーストラリア大学紹介

クイーンズランド州

ジェームズ・クック大学 CRICOS 00117J

環境学、生態学、地球科学、観光学の分野においては世界トップクラス
大学１年生には先輩がメンターとしてつき、サポートを行うメンター制度を導入

人気の専攻：環境学、海洋学、地球科学、生態学、観光学、看護学

サンシャインコースト大学 CRICOS 01595D

キャンパス近くのフレーザー島で最先端のエコツーリズムを実施しているため、観光学を学びたい学生に人気が高い

人気の専攻：観光学、看護学、ビジネス、ヘルスケア

クイーンズランド工科大学 CRICOS 00213J

マイクロソフト、オラクル、ボーイング、世界銀行など産業界や国際機関とも深い繋がりをもち、即戦力となる人材を育成するためのプログラムを提供

人気の専攻：ビジネス、メディア・コミュニケーション、教育学
工学、エンジニアリング、IT、看護学

グリフィス大学 CRICOS 00233E

ゴールドコーストとブリスベンにもキャンパスを持つ大規模大学のひとつ
就職活動サポートに力を入れており、大学内でインターンシップやボランティアの機会がある

人気の専攻：社会科学、ホスピタリティ、スポーツマネジメント
ビジネス、エンジニアリング、観光学

サザンクロス大学 CRICOS 01241G

ホテルスクールを有しており、ホテル業界と強いつながりをもつ
就職率が高いため、ホスピタリティ分野の人気が高い

人気の専攻：観光学、ホスピタリティ、航空学、法学

ボンド大学 CRICOS 00017B

少人数制で質の高い個別指導に力を入れており、社会人スキルを養うカリキュラムも充実
約80か国からの留学生が在籍している

人気の専攻：観光・ホスピタリティ、国際関係額、栄養学、スポーツマネジメント、法学

ニューサウスウェールズ州

ニューサウスウエールズ大学 CRICOS 00098G

研究や教育、卒業生の進路や評価、留学生受け入れなど、毎年多数の分野で5つ星の評価を獲得

QS世界大学ランキング　45位

人気の専攻：工学、ビジネス、エンジニアリング、法学、IT
デザイン・芸術、建築、（通訳・翻訳：大学院）

ニューカッスル大学 CRICOS 00109J

オーストラリア国内でTop10に評価されるリサーチ力を誇り、質の高いプログラムを提供

人気の専攻：工学、教育学、看護学、法学、ビジネス、医学
観光学

ヴィクトリア州

メルボルン大学 CRICOS 00116K

ノーベル賞受賞者やオーストラリア首相を輩出している、オーストラリアで2番目に歴史のある伝統校

QS世界大学ランキング　39位

人気の専攻：IT、ビジネス、メディア・コミュニケーション
バイオメディスン、芸術、社会学、アジア学
エンジニアリング、農学、デザイン

モナシュ大学 CRICOS 00008C

2011年、ニューヨークタイムスが調査したアメリカ、ヨーロッパを含む世界10各国のトップ企業において雇用したい卒業生調査で世界47位（オーストラリア国内1位）

QS世界大学ランキング　59位

人気の専攻：ビジネス、国際関係、薬学、アジア学、法学
メディア・コミュニケーション、通訳・翻訳

ディーキン大学 CRICOS 00113B

政府や一流企業と密接な関係があり、世界的にも優れた専門性の高いプログラムを提供
スポーツサイエンスが世界1位

人気の専攻：スポーツマネジメント、教育学、看護学、建築学、法学、心理学、メディア・コミュニケーション、経営学

ラ・トローブ大学 CRICOS 00115M

100以上の海外大学と協定を結び、産業界とも強いつながりをもつ
教育学コースは国内でも高い評価

人気の専攻：教育学、環境学、人文科学、看護学、生物学

オーストラリアンカソリック大学 CRICOS 00004G

世界25か国とネットワークをもつ総合大学
就職率に定評があり、卒業後4か月以内に9割以上の学生がフルタイムの仕事につく

人気の専攻：看護学、ヘルスケア、ビジネス、教育学

スインバン工科大学 CRICOS 00111D

マレーシアにもキャンパスをもつ総合大学
実践的教育に力を入れており、学部の枠を超え多様な科目を履修することも可能

人気の専攻：IT、メディア・コミュニケーション、社会学、心理学

ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT） CRICOS 00122A

テクノロジーとデザイン分野（特に建築学は世界５位）が世界的に有名なオーストラリア最大規模の大学

人気の専攻：建築学、テクノロジー、デザイン、通訳・翻訳
ファイナンス、メディア・コミュニケーション、情報工学

オーストラリア大学紹介

南オーストラリア州

アデレード大学

CRICOS　00123M

優れた研究実績で、ノーベル賞受賞者を輩出するオーストラリアで3番目に歴史のある大学

QS世界大学ランキング　114位

人気の専攻：法学、環境学、看護学、薬学、農学、獣医学

南オーストラリア大学

CRICOS 00121B

産業界や専門家と協力しながら実践的な教育を行っており、オーストラリア大学教育優秀賞を４回受賞

人気の専攻：エンジニアリング、観光学、航空学、看護学、IT、教育学、工学

フリンダース大学

CRICOS 00114a

フリンダース大学は革新的な国際教育を指針として、最新テクノロジーの使用やインタラクティブかつ個人に合わせた柔軟な学習を提供

人気の専攻：ビジネス、工学、IT、看護学、社会福祉、教育

西オーストラリア州

西オーストラリア大学

CRICOS 00126G

企業とのパートナーシップを積極的に進めており、就職率が高い。

ノーベル生理学・医学賞受賞の教授が在籍

QS世界大学ランキング　91位

人気の専攻：ビジネス、IT、アジア学、社会学、医学・看護学医療系

各大学専攻一覧

※2019年現在

	ビジネス	国際関係学	人文学	IT	工学	建築	観光・ホスピタリティ	環境学	アジア学	メディア・コミュニケーション	スポーツ	海洋学	看護学	デザイン
メルボルン大学	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
ニューサウスウェールズ大学	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	△ (Marine Science)	×	○
アデレード大学	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	△ (建築デザイン他)
モナシュ大学	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△ (Physiotherapy)	○	○	○
西オーストラリア大学	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○
ディーキン大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラ･トローブ大学	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×
オーストラリアンカソリック大学	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	○	△ (Visual Arts and Design)
スインバンエ科大学	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○
ロイヤルメルボルンエ科大学（RMIT)	○	△ (International Development)	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○
南オーストラリア大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
フリンダース大学	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×
クイーンズランドエ科大学	○	×	○	○	○	○	×	○	△ (International Business)	○	○	×	○	○
ボンド大学	○	○	○	△ (Data Analytics 他)	×	○	○	×	○	○	○	×	×	○ (Multimedia)
ニューカッスル大学	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○
グリフィス大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジェームズ･クック大学	○	○	○	○	○	○	○	○	△ (Japanese Studies)	○	○	○	○	○
サンシャインコースト大学	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	△ (Animal Ecology)	○	○
サザンクロス大学	○	△	○	○	○	×	○	×	△	○	○	○	○	△ (ただし建築デザインのみ)

先輩たちへの質問コーナー

★なぜ留学しようと思ったの？

第1に、英語圏内の国であることを考え、アメリカ、カナダ、イギリスとオーストラリアが自分の中に候補に挙がり、自分の興味のあるコース、海外の大学に留学すると決めたからにはある程度のレベルの大学を視野に入れつつ、生活(気候、過ごしやすさ)なども踏まえてオーストラリア第1の都市のシドニーに決めました。そして、ITに興味があったので、その分野で強いニューサウスウエールズ大学を選びました。〈ニューサウスウエールズ大学に進学 Nさん〉

私は高校時代の経験が留学のきっかけとなりました。ある韓国の学生たちとの交流で、自分の考えを英語でうまく伝えられずに悔しい思いをすると同時に、たった１つの「英語」というツールで、世界中の人たちと話すことができるのだと気づき、絶対に英語を習得しようと思うようになりました。また、オーストラリア研修では、実際に「英語」を通じて様々なバックグラウンドを持つ人たちと交流ができる環境を目の当たりにし、強く惹かれました。私自身、国際関係学を学びたいと考えていたこともあり、英語で学べる国かつ多国籍でオープンな雰囲気をもつオーストラリアはぴったりの場所だと思い、留学することを決めました。〈モナシュ大学に進学 Ｙさん〉

高校1年生の夏休みに、メルボルン郊外で2週間のホームステイ体験をしました。そこで、英語を使って他の国の人々とコミュニケーションをとる楽しさ、自分とは違う文化に触れる楽しさを知り、高校卒業後の進路として大学留学を考え始めました。自身の高校に帰国子女の生徒も多く、彼らのように海外を身近に感じたい、彼らのような流暢な英語で話したい、と憧れももっていました。
ホスピタリティ分野に興味もあり、移民も多く、様々な文化や価値観に触れることができるであろう（実際にそうでした！）オーストラリア、そして世界的にも評価の高いメルボルン大学入学を目指すことにしました。最初両親は正規大学留学には反対していたのですが、自分の中で迷いはなかったので、英語を学んで、世界で自分の視野を広げたい、そのためにも海外の大学で勉強したいと伝え、最終的には自分のやりたいようにやりなさいと送り出してくれました。
実際、高校卒業後に日本の大学には進学せずに海外留学する道を選んで、私は良かったと思っています。全く知り合いのいない海外で1人、イチからのスタートで大学を卒業できたことは、自分の人生において大きな財産と自信につながりました。特に現地の大学進学準備コース在学中は、同じ年代の各国からの留学生と共に、大学入学という同じ目標に向かって一生懸命勉強し、皆、新しい環境の中苦楽をともにしました。今振り返ると、そこで頑張ることで、留学生活の土台をつくることができ、留学生活の楽しさも早々に感じ、充実した時間を過ごすことができました。また、そのコースではアジア系の友人が多くでき、彼らの言葉が理解できたらいいなと軽い気持ちで始めた中国語にすっかりはまってしまい、大学で専攻科目の一つとしました。オーストラリア留学をしながらも交換留学で中国で学ぶこともでき、自分の世界がどんどん広がる気がしてとても嬉しかったです。中国でもまた違った文化や価値観に触れ、やはり世界を知る、感じるには実際に行くことが一番だと改めて思いました。様々な国や年代の人との出会いを通じ、相手を理解しようとするコミュニケーション能力も留学を通して身につけることができ、就職活動でもアピールできました。〈メルボルン大学に進学 Hさん〉

オーストラリアでの学生生活ってどんな感じ？

ファウンデーションコースの授業は多忙でしたが、実際に大学での授業において大変役に立つ事が多かったです。最低限の課題をこなすだけならばたいして時間はかかりませんが、予習復習は結構大変です。例えば、History of Ideas (クリティカルシンキング)、Accounting、Economicsでは週にテキストの30～40頁分を事前に読むことが大前提となっていました。またエッセイ課題も慣れないうちは時間がかかるかもしれません。私も最初は何度も徹夜をする羽目になりました。幸いな事に、数学と進学準備英語（English for Academic Purposes）は、文法やアカデミックライティングに重きを置いているので、比較的日本人にとっては困難ではないと思います。〈メルボルン大学に進学 Kさん〉

ファウンデーションコースでは英語の授業を始め、オーストラリアの法律、経済学、数学、会計学など大学の一年目で取る教科の基礎部分を学び、それと同時にエッセイの書き方などの大学に入ったあとに困らない程度の学習を中心に学びました。初めての英語での語学以外の授業に最初は戸惑いましたが、数学は中2くらいのレベルの内容だったので、その分それまで習ったことのない経済学や会計学に時間を割くことができました。先生たちも積極的にコミュニケーションを取ってきてくれるので、とてもやりやすい環境で学ぶことができました。

大学の学部に入ってからは、自分の学部にはあまり留学生がおらずはじめは少し戸惑いましたが、現地の英語環境に身を置けるチャンスだったので良かったのかもしれません。授業についてはファウンデーションに比べ、レクチャーの進むスピード、一回に学ぶ量が格段に増え、それに加えて課題も同時進行なので慣れるまで大変でした。大学に入ってからは特に大学の授業以外での学習時間が大事だと思いました。一つの課題だけでも10個近い参考文献を読んだり、ファウンデーションの時よりも教科書などを読む時間がより多くなりました。ファウンデーションに比べ、大学のレクチャラーやチューターは多くの学生を同時に見ています。自分から質問などに行かないといけないため、より学習への積極性が必要になります。〈ニューサウスウエールズ大学に進学 Nさん〉

オーストラリアの暮らしはどんな感じ？

最初3ヶ月ほどホームステイをしましたが、自分でシェアハウスをインターネットから探し、一人暮らしをはじめました。一人暮らしを始めてからは、学校以外の暇な時間を有効に使うため、また、学費以外の雑費を自分で払うために日本食レストランでアルバイトをしつつ勉強し、週末には友達とBBQをしたり高校まで続けていたサッカーをしたりして過ごしていました。今現在も大学に通いつつアルバイトと日系IT会社インターンシップをして将来の就職活動に向けて経験を積んでいる段階です。夏休み等の長期休みではエアーズロックなどシドニー以外のオーストラリアならではの観光地に行って楽しんでます。　〈ニューサウスウエールズ大学に進学 Nさん〉

平日は大学の課題に追われる毎日でしたが、週末は郊外まで遠出をしたり、友達になった世界各国からの留学生とホームパーティをしたり、一緒に買い物をしたり、映画やオーストラリアンフットボールを見に行ったりと、とても有意義に過ごしました。ホームスティ、大学の寮、シェアハウス、友人とアパート住まい、と順番に経験しましたが、留学当初にホームスティや寮で、現地の人たちと深く交流でき、友人も増えたことで、オーストラリアでの生活にもすぐ慣れ、留学生活も楽しくスムーズに進んだ気がします。食事や買い物なども、基本的に日本と同じ商品があるので、生活で困ることはありませんでした。大学の長期休みにはケアンズやエアーズロック等にも旅行に出かけ、オーストラリアならではの大自然も満喫することができました。OnとOff のメリハリのついた留学生活でした！〈メルボルン大学に進学 Hさん〉

卒業生からのメッセージ①

名前：山口　栞さん
留学期間：2012年6月―2016年12月
大学：メルボルン大学
コース：英語学校（ホーソンメルボルン）->
　　ファウンデーションプログラム(トリニティカレッジ）　->　メルボルン大学

・留学しようと思ったきっかけ（オーストラリアの大学を進学先として選ばれたご理由）
留学しようと思ったきっかけは、私の興味のある分野の心理学が発展している国で勉強してみて知見を広げたかったからです。
その中でもオーストラリアを留学先に選んだ理由は、中学生の時ホームスティでオ―ストラリアに二週間程滞在した時に、たくさんの素敵な人との出会いがあり、またゆったりした環境が私の性格に合っていて、またいつか戻りたいとずっと思っていたからです。

・大学/現地での生活について（苦労した点、楽しかった点、、成長できた点）
学部時代苦労したことは、授業、バイト、ボランティアを全て妥協することなくこなすことでした。授業での課題に追われる中、毎朝寿司屋で寿司を300本以上巻き、また、週2日授業が終わった後，子供達に数学を教えていました。
この生活はとても大変だったのですが、友達が大学内だけでなく外部にもでき、様々な価値観に触れることができ、また、タイムマネジメント力も高めることができました。今でも、有意義な大学生活を送ることができたと思っています。

・卒業後の進路/または、これからオーストラリア留学を考えている後輩へメッセージ
私は、メルボルンで学士を取得した後、日本に帰国して日本の大学で修士を取得しました。日本の大学も良い点はたくさんあると思いますが、個人的にはメルボルン大学の教育の手厚さ、授業の内容の濃さなどを改めて感じました。
また、様々な国籍の人と常に議論を交わせる環境に身を置けたことは大変恵まれていたと実感しました。
なので、少しでも留学したいと思っていたらぜひ挑戦してみてください。

卒業生からのメッセージ②

名前：小原　瑠美さん
留学期間：2014年3月―現在留学中(2019年12月卒業予定)
大学：ラ　トローブ大学
コース：英語学校(ホーソンメルボルン)　-> 大学準備コース(ラ　トローブ大学)　-> ラ　トローブ大学

・留学しようと思ったきっかけ
私は幼い頃から両親の友人（様々な国の）が毎年入れ替わり短期ホームステイする家庭で育ちました。その影響で将来、外国の人たちと英語で不自由なくコミュニケーションを取りたいという思いがずっとありました。
高校卒業後の進路を考え思い悩んでいた時にMECの説明会に参加し、ずっと抱いていた思い、両親の勧めもあり海外留学をする決断をしました。
我が家にホームステイした両親の友人が沢山メルボルンに住んでいて安心ということもあり、留学先をオーストラリア（メルボルン）に決めました。

・大学/現地での生活について（苦労した点、楽しかった点、成長できた点）
私は当初から大学進学を考えていましたが、英語が全く出来ず語学学校では一番低いレベルのコースからのスタートだったので本当に進学出来るのか不安でしたが、クリアする度に達成感がありました。
大学進学までに時間はかかりましたが、ファウンデーションコースでは英語で色々な教科を学ぶという初めての経験ができ、語学の勉強ばかりよりも新鮮で学校を楽しく感じる機会が増えました。
Bachelorに入ってからは、オーストラリア人と同じ評価をされる為、授業課題の提出、テストなど大きなプレッシャーがかかる中、大学の友人たちに助けられながら充実した学生生活を過ごしています。

・卒業後の進路/または、これからオーストラリア留学を考えている後輩へメッセージ
今年の末に卒業予定で、その後すぐに帰国するかはまだ確定していませんが、将来は留学生活で得た経験やオーストラリアの大学での知識を活かす仕事をすることが目標です。オーストラリアは多文化なので、色んな国から留学生が来ています。生活をする中で沢山の異国の友達が増えるので楽しく過ごせると思います。

卒業生からのメッセージ③

留学期間：2018年7月―現在留学中(2021年卒業予定)
大学：ジェームズクック大学
コース：英語学校（ジェームスクック大学附属）-> ジェームズクック大学

私がジェームスクック大学の海洋学を志願した理由は、海洋生物において世界トップレベルだった為です。オーストラリアを選んだのは、時差が少ない(1時間)事、英語が学べる事、学部は3年間で学費を抑えられる事、比較的治安が良い事からです。
大学で学ぶようになり、視野が広がり、知識に貪欲にもなりました。
今は、卒業後、世界と対等に渡り合えたらと思うようになりました。

現在、驚くほど刺激的で、内容の濃い毎日を送っています。
大まかな平日のスタイルは、起床→ホームステイから、大学（自転車）→自習室で朝勉→授業→授業と授業の合間に大学の図書館で勉強→夕方まで自習→帰宅→バイト(金)/ボランティア(水)/スポーツクラブ(火)等。夕飯以外は基本勉強しながら食べる感じです。休日は家で勉強(課題やその週の復習、次週の予習・準備)、バイト、スポーツクラブ等専攻するコースにもよりますが、私自身は、平日、勉強に明け暮れており、金曜日を迎えるととても幸せな気。分になります。今週も終わった～！っという感じです。
前期は自分に合った勉強スタイル、ノートの取り方、時間の使い方をマスターするのにすごく時間がかかりました。課題も同時進行でやってくるので正直辛かったですね。大学の授業は高校と違い、能動的に受けないと置いていかれる傾向（オーストラリアは）にあるのでとにかく付いていこうと必死でした。予習・復習はあたりまえと教授も思っている感じです。”trial and error” という言葉がぴったりだなという感じでした。とにかくたくさん挑戦して失敗してやり方を変えてまた挑戦して失敗してという繰り返しです。努力が結果に現れた時はとても嬉しかったですね。心の中でいつもガッツポーズでした。
勉強面だけでなく人として成長できた面もたくさんあるなと思います。家族と離れ、相談もできず、不安や、寂しさで辛い時もありました。自分だけでどうにか乗り越える事は結構大変ですね。それと同時に今までの親への感謝が込み上げてくることもよくあります。どれだけ親に甘えてきたのかが身に染みてわかります。更に、これからは私の人生なんだとう使命感も感じるようになりました。
学部3年後の進学や就職を視野に入れ、将来に必要な教科の選択や、ボランティア活動（水族館で研修中）も重要です。今からリサーチしていかないとなと感じています。

長い文章読んでいただきありがとうございました。留学は、すごく楽しいし簡単だからおススメ！ではなくてすみません。でも、私はすごく毎日苦しんで楽しんでいます。筋肉痛痛いけど「筋肉ついてる～」と喜ぶ感じです!?人生で今一番自分自身と向き合い、自分の限界を越えようと努力できているなと感じます。自分の将来について悩むこともありますが、そうやって真剣に自分と向き合えるのはなんて幸せなんだと思うようになりました。
もしあなたが自分自身に挑戦してみたいという好奇心を持っているのであれば、私は心から留学をお勧めします。環境を変えることによってこれだけ成長できることを知ってほしいからです。頑張ってください。

卒業生からのメッセージ④

名　　前：ＨＴさん
留学期間：2018年月―現在留学中
大学：メルボルン大学
コース：英語学校（ホーソンメルボルン）-> ファウンデーションプログラム(トリニティカレッジ） -> メルボルン大学

オーストラリアの大学に進学しようと思ったのは高校の時に参加した震災復興ボランティアでお目にかかったアメリカの大学を卒業なさった方に憧れたのがきっかけでした。
元々農学を学びたいと思っており、科学技術を使い食料不足の問題の改善に役立つような勉強がしたいと思い英語が母国語かつアメリカの大学よりは学費が安くまた世界的知名度の高いメルボルン大学に進学することを決めました。また、日本の大学ではなくオーストラリアの大学を選んだのは英語で学べる環境だという事に加え様々な国の学生(特にアジア)と触れ合う機会があると思い近年深刻化しているアジア諸国の問題を直に感じられるかと思ったからです。

オーストラリアでの生活で楽しかったことは、ホストマザーが日本に来て一緒に観光するまで仲良くなったことです。また、友達とお泊まり会をして課題を一緒にしたりしたのも楽しい思い出です。

勉強面では、たくさん勉強してテストが終わった後の爽快感と結果が伴った時の達成感は何物にも変えがたい充実感がありました。トリニティでお世話になった生物の先生は英語が不得意だった私に辛抱強く教えて下さり、テストの結果が良かった時にはまるで自分の事のように喜んで下さいました。この経験は日本ではなかったことなので日々の勉強をする上でのモチベーションにつながりました。

トリニティカレッジを卒業後はメルボルン大学の理学部で農業科学を専攻しようと思っています。
私の周りにいたお友達は皆がそれぞれ勉強に対する意欲が高く自分も頑張ろうと思えたので勉強に集中できる環境は整っていました。また、自分の勉強したいと思える分野が必ず見つかる環境だと思います。

メルボルン大学は一年生からBreath subjectという違う学部から選択できる教科があり私は理学部ですが、私はトリニティで学んだ政治が面白かったので international politics を選択しました。他にもダンスの授業やオーストラリアワインのクラスなどもあって科目選びは興味深いです。トリニティカレッジを終えて大学に入学したばかりですが、私は本当に周りの人達にとても恵まれているので辛いことや大変なことをうまく乗り越えられてきたと思います。特にホーソン英語学校の教師でもあるホストマザーとは最初はかなり折り合いが悪く苦労しましたが、時間をかけていくうちに課題を一生懸命手伝ってくれたり夜食を作ってくれたりと本当にお世話になっています。人間関係は留学生活の上で大変重要な項目だと思うのでこれから留学なさる皆様も大切にして頂けたら良いかと思います。

卒業生からのメッセージ⑤

名　　前：ＹＮさん
留学期間：
大学：ニューサウスウェールズ大学
コース：英語学校（UNSW）-> ファウンデーションプログラム（UNSW)->ニューサウスウェールズ大学

ファウンデーション＆学部の授業内容
ファウンデーションでは英語の授業を始め、オーストラリアの法律、経済学、数学、会計学など大学の一年目で取る教科の基礎部分を学び、それと同時にエッセイの書き方などの大学に入ったあとに困らない程度の学習を中心に学びました。初めての英語での語学以外の授業に最初は戸惑いましたが、数学に関しては正直すごいレベルの低いところから(中2レベル)だったので、その分それまで習ったことのない経済学や会計学に時間を割くことができました。先生たちも積極的にコミュニケーションを取ってきてくれるので、とてもやりやすい環境で学ぶことができました。

大学の学部に入ってからは、自分の学部にはあまり他の国からの留学生がおらずはじめは少し戸惑いましたが、ある意味もっと現地の英語環境に身を置けるチャンスだったので良かったのかもしれません。授業についてはファウンデーションに比べレクチャーの進むスピード、一回に学ぶ量が格段に増え、それに加えて課題も同時進行なので慣れるまで大変でした。大学に入ってからは特に大学の授業以外での学習時間が大事だと思いました。一つの課題だけでも10個近い参考文献を読んだり、ファウンデーションの時よりも教科書などを読む時間がより多くなりました。ファウンデーションのときと比べてレクチャラーやチューターは多くの学生を同時に見るため、自分から質問などに行かないといけないので、より学習への積極性が必要になります。

保護者様の声

きっかけは、高校で企画されたホームステイでした。生の英語に触れながら勉強したいという娘に唖然としましたが、決意の強さに押され承諾しました。他の国も検討しましたが、オーストラリアは政府が留学生を受け入れる大学を厳しくチェックしており、質の高い教育を受けられること、比較的安全であること、何より娘自身がおおらかなオーストラリアの環境を気に入っていることが決め手となりました。留学したことで娘はひと回りもふた回りも大きく強くなったと思います。話しぶりにそこはかとなく漂う自信、それは様々な国の友人と交流し、また慣れない環境の中で奮闘した日々から得られたものだと思います。まさにかわいい子には旅をさせろですね。　〈モナシュ大学に進学 Yさんのお母様〉

■オーストラリアの大学を選んだ理由

1.国の安心性。治安も欧米と比べると相対的に良いこと。また日本との時差も少なく子供を安心して現地に送ることができる。

2.教育、カリキュラムの水準が高い反面学費がアメリカ、イギリスより安価であること。

3.オーストラリアの大学がアジア各国ではもちろん欧米でも高評価を得て認知されていること。
- 自身の同僚の活躍と職場での経験からもこの点は感じていた

■留学をさせるにあたり不安であったこと

1.これまで一度も親元を離れたことがなかったため、遠方の他国での生活一般。
- 健康管理、自炊、自己管理等

2.環境の異なる異国でそこに溶け込んでいけるか否か。そしてそこで人生を謳歌できるか否か。

3.テロ、事故等の安全面（上記１の点は評価しつつも）

■留学をさせて良かったこと

1.語学力は無論、カリキュラムの質、量ともに日本での教育の比にならないほど豊富で勉学に専心している様子。また、それが親にも見える形になっている。

2.外国人といった壁を乗り越えて、多人種、他宗教の友人も増え国際人として成長している。

3.甘えが許されない外国での生活環境で自力で解決していく力が増し、能動的な人間へと成長してくれている。

4.彼がおかれている環境がそうさせるのか、多くの違った環境、考え、意見、そして宗教を受け入れることにより人間としての器（受容性）が大きくなり、より優しさが増し、またそれが態度や言葉に表れるようになった。　〈メルボルン大学に進学 Ｋさんのご両親〉

留学までの流れ

ご相談・申請・留学中のサポートは、無料で対応しております！

	ＭＥＣ 留学個人相談 ＊1	学校選択	出願	入学＆渡航手続き	出発前 オリエンテーション	渡豪
スケジュール目安	※高校2年生頃までにご相談に来られることをオススメします。		高校3年生夏休み	6～8ヶ月程度	出発1ヶ月前	

＊1 留学にご興味がありましたら、まずはご相談ください。お話を伺い、ご自身の希望に沿った留学プランをご案内させていただきます。
また、現地担当スタッフが来日した際にも相談会を実施します。留学に関する疑問を直接相談できる機会となりますので、ぜひご参加ください。
開催日時は弊社ＨＰにてご案内しております。

・留学中にお困りのことがあれば、メール・お電話にていつでもご相談ください。留学先現地スタッフと弊社担当スタッフが連携を取り、対応いたします。
・留学中には、現地スタッフによるお茶会やお食事会などの交流会も行います。また、留学後には同窓会を実施するなど、皆様の将来のキャリアを長くアシストできるようにサポートしております。

MEC

つながる留学

MECは、留学生の可能性やニーズを第一に考え、現地で安心して留学生活が送れるような環境づくりをご提案いたします。
そのために、私たちスタッフは「安心して推薦できる」「厳選された」教育機関をご紹介します。
また、MECは「つながる留学」の実現を目指しています。留学生が深い信頼関係で海外教育機関と「つながる」そして夢や将来に「つながる」留学を実現できるようなサービス提供を心掛けております。

弊社は、オーストラリア留学専門エージェントとして2001年より個人留学及び日本の大学の研修プログラムのコーディネーターとして、豪州の大学との懸け橋を担っています。
また、メルボルン大学日本事務局での経験を活かし、オーストラリアの大学進学を目指す方へのサポートも行っております。この度、弊社から大学進学をされた方々からメッセージを頂きました。将来留学をご検討されていらっしゃる方へのエールとなれば幸いです。

代表　山下 多英子

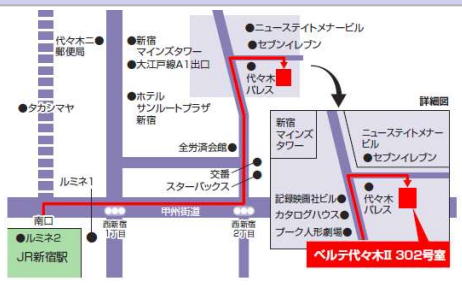
PROFILE

1987-95　留学会社にてオーストラリア留学統括
1995-99　在日オーストラリア大使館
　　オーストラリア国際教育機構 在籍
　　豪日政府間における教育推進に従事
1999-01　メルボルン大学日本事務局代表
2001-　　MEC設立

<お問い合わせ先>
〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-21-11　ベルテ代々木Ⅱ　302号室

TEL　03-6276-1962
FAX　03-6276-1963
E-mail　info@mec-ryugaku.jp
URL　www.mec-ryugaku.jp

MEC　留学



お問い合わせ・お申しふみは
オーストラリア・NZ留学 MEC
M E C
〒151-0053
東京都渋谷区代々木 2-21-11
ベルテ代々木Ⅱ 302号室
Phone: (03)6276-1962
Email: info@mec-ryugaku.jp
HP：http://mec-ryugaku.jp